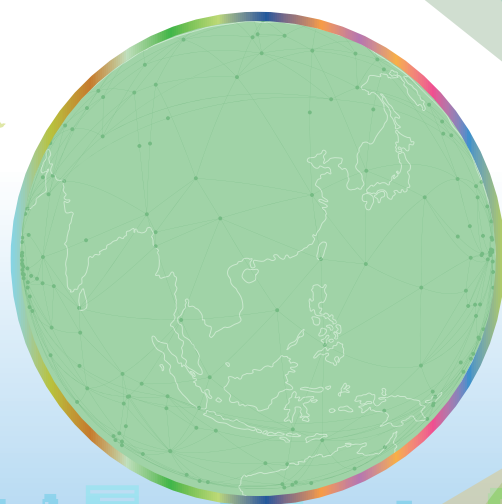


社会・環境報告書 2021

社会との共存と
地球環境との調和をめざして



ダイジェスト版

SIIグループ事業概要

会社概要

社名	セイコーインスツル株式会社(略称:SII)	従業員数	(単独) 554名 2021年3月31日現在
設立	1937年(昭和12年)9月7日	(連結)	3,239名
資本金	97.56億円 (セイコーホールディングス株式会社 全額出資)		
決算期	3月(年1回)		



編集方針

- 本報告書はSIIグループのCSR活動をステークホルダーの皆様にお伝えするとともに、皆様からご意見をいただきCSR活動の改善につなげるツールと位置付けています。
- 本報告書に掲載していない詳細な情報や最新情報はホームページでご覧いただけます。
<https://www.sii.co.jp/eco/>

報告対象範囲

- セイコーインスツル(株)の各事業所、営業所ならびに関係会社。
- * 環境報告はISO14001認証取得拠点である国内6拠点、海外3拠点を中心に報告しています。環境パフォーマンスデータの一部には、海外のオフィス拠点も含まれています。

報告対象期間

2020年度(2020年4月～2021年3月)

■お問い合わせ先

千葉県千葉市美浜区中瀬 1-8 〒261-8507

セイコーインスツル株式会社

環境経営推進部 TEL:043-211-1149 FAX:043-211-8019 ホームページ：<https://www.sii.co.jp/eco/>

トップメッセージ

笑顔であふれる未来を創る

2020年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当然のことと考えられていた常識や価値観、働き方や暮らし方が大きく変化した1年でした。そして社会・経済にも大きな影響を及ぼしました。私たちSIIもさまざまな影響を受けましたが、新たなリスクや事業機会のきっかけを確信した1年でした。

そうした中、気候変動、資源循環、人権問題などの社会的課題の解決に企業が果たすべき役割はますます重要になり、企業にはサステナブルな経営が求められています。

環境問題では気候変動への対応はまったなしの状態、日本政府もカーボンニュートラル、脱炭素社会に向けて大きく動き出しました。SIIにおいては、これまでも一人ひとりの身近な省エネ活動をはじめ、ものづくり現場での省エネに取り組んできました。そして、永年培った「匠・小・省」の技術によって、省エネ性に優れた製品の創出にも努めてきました。

今後はこれまでの活動に加え、再生可能エネルギーの導入も加速していきたいと考えています。グループ内ですでにCO₂排出量をもっとも多いタイの製造拠点で導入していますが、今後は国内外の各拠点での導入を推進し、脱炭素社会の実現を目指してまいります。

今回のコロナ禍では、海外のロックダウンなどによるサプライチェーンの寸断で、部材の入手が困難になるというメーカーには致命的なリスクが顕在化しました。サプライチェーンをグローバルに展開するSIIにとっても海外からの調達の遅れなど多大な影響を受け、あらためてサプライチェーンの重要性を再認識した次第です。

このサプライチェーン全体を俯瞰したときに、もう一つ大きなリスクに人権問題があります。各国では人権関連の法制化が進み、企業においてもサプライチェーン含めた取り組みが求められています。私たちも意図せずに人権侵害に加担することがないように、パートナーであるサプライヤーとともに人権問題に取り組んでいきます。

企業のサステナブルな経営には、社員一人ひとりの社会的課題に対する意識と解決に向けた行動力は欠かせません。そのためには、社員一人ひとりが心身ともに健康であり、ライフスタイルにあった働き方が選択できること、そして笑顔で過ごせることが前提です。経営を預かる者として、私は社員が笑顔で働けるように尽力してまいります。そして、ステークホルダーのみならず笑顔になる製品やサービスを提供し、笑顔であふれる未来を創っていく所存です。



セイコーインスツル株式会社
代表取締役社長

小林 哲

理念とCI/企業行動憲章

SIIの理念「誠実、信頼、感謝」は、SIIと社会・ステークホルダーとのかかわり方の基本姿勢を示すものです。いつの時代にあっても社会やステークホルダーから必要とされ、信頼され続ける存在でありたいと考えています。SIIのCSRはこの理念の中に原点があり、持続可能な社会に期待される企業の姿としてその意志を表明したのが「SII企業行動憲章」です。

理念とコーポレートアイデンティティ

理念

誠実・信頼・感謝

コーポレート
アイデンティティ

時を創り、時を活かし、時を豊かに

■ SII 企業行動憲章（2005年10月制定 2011年4月改定）

SIIグループは、経済社会の発展を担うとともに、いつの時代にあっても社会から必要とされ、信頼される存在でありたいと考えています。SIIグループ各社および社員は、高い倫理観を持って社会的責任を果たしながら、社会とステークホルダーへ新しい価値を提供し、持続可能な社会の創造を目指します。

<第1条> 価値の提供

技術の研鑽に努め、社会的に有用で、安全性と品質が高い製品やサービス、新しい価値を提供し、お客様の満足と信頼の向上を図ります。

<第2条> 公正・誠実な企業活動

- ・ 遵法はもとより、個人情報・顧客情報をはじめとする各種情報を正しく管理し、倫理的で公正、誠実な企業活動を行います。
- ・ 政治や行政との健全な関係を保ち、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力には、毅然とした態度で対応します。

<第3条> 人間尊重と人材育成

- ・ 社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
- ・ 事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。
- ・ 高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

<第4条> 環境との調和

環境問題への取り組みは人類共通の課題と認識し、主体的に行動します。

<第5条> 社会との共存

- ・ 社会と対話し、適正な情報開示を行い、開かれた企業を目指します。
- ・ 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- ・ グローバルな事業活動においても、この憲章に従いながら、ステークホルダーの関心に配慮した経営を行い、各国の発展に貢献します。

<第6条> 経営トップのコミットメント

- ・ この憲章の精神を率先垂範の上、実効ある体制を確立し、SIIグループへの徹底を図るとともに、取引先にも促します。
- ・ この憲章に反する事態が生じたときは、自らが問題解決にあたり、説明責任を遂行の上、自らを含め厳正な処分を行います。

CSR推進体制

SIIでは、2005年1月より全社のCSR活動を総括的に推進するためにCSR委員会を設置しています。委員会は代表取締役社長を委員長とし本社部門長を常任委員として構成しています。

CSR委員会では、コンプライアンスおよびリスクマネジメントを含むCSR活動の推進に伴う重要課題・案件を審議・決定し、その活動状況は定期的に経営層へ報告しています。

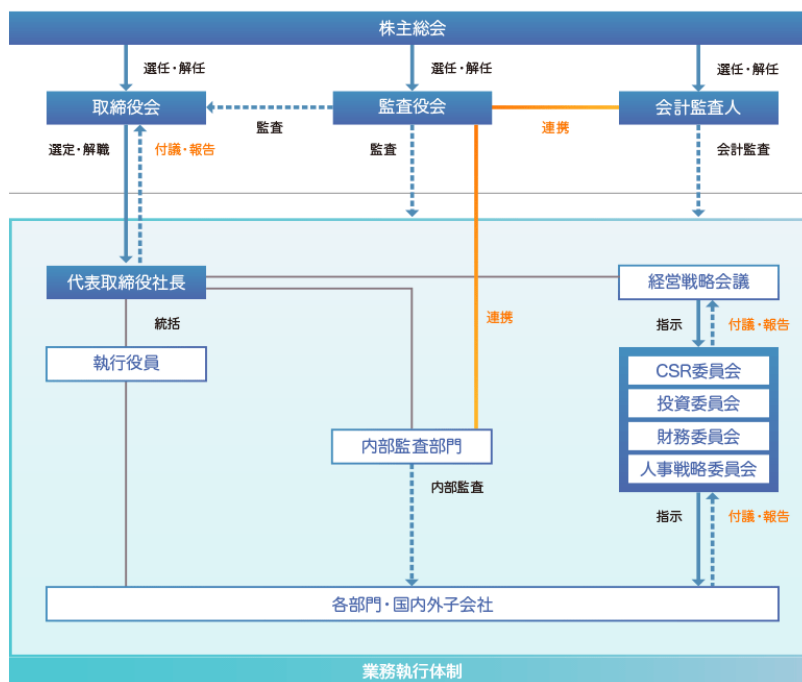
コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

SIIは、ステークホルダーの信頼に答えていくため、企業価値の向上に向けて、経営の透明性・公正性を確保していくことが重要な経営課題の一つと認識し、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

SIIでは、機関設計の形態として、監査役会設置会社を採用しています。

コーポレート・ガバナンスの体制



内部統制システムの整備

SIIでは、取締役会で決議した「内部統制システムの基本方針」に基づき体制の整備を行い、取締役会に毎年運用状況を報告し、取締役会において運用状況を監督しています。

取締役会には、四半期毎にリスクマネジメント・コンプライアンスの活動状況、内部通報制度の運用状況を、また、内部監査の状況を年2回報告しています。内部監査は、内部監査部門が定期的に行うほか、管理部門が各種監査を実施しております。

金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制としては、親会社であるセイコーホールディングス株式会社の財務報告に係る内部統制の評価及び報告のため、連結子会社としてSIIグループの内部統制の経営者評価を行い、親会社に報告しています。

コンプライアンス

コンプライアンス体制

SIIではCSR委員会がコンプライアンス推進の機能を担い、コンプライアンス意識の普及啓発、問題事例発生時の対策検討などを行っています。

内部統制システムの基本方針に従い、国内外子会社におけるコンプライアンス体制の継続的な充実・向上を図っています。

海外子会社での体制整備に向けては、各海外子会社で選任したコンプライアンス推進員によりコンプライアンス体制充実のための諸活動を推進しています。

内部通報制度

コンプライアンスに反する行為を通報できるよう、社外弁護士を窓口とするSIIヘルプラインを設置しています。SIIヘルプラインは、SIIグループ内および同グループ各社の退職者のほか、同グループの取引先の皆様からも、SIIグループについてのコンプライアンスに反する行為について情報提供いただけるようになっています。また、社内にも相談窓口も設置しています。なお、通報・相談の内容は直ちにCSR委員会委員長および監査役に報告するとともに、定期的にCSR委員会、取締役会に報告しています。

2020年度のSIIグループにおける通報・相談は7件でした。

リスクマネジメント

全社リスクマネジメントの取り組み

SIIでは代表取締役社長を委員長とするCSR委員会を中心として全社的なリスクマネジメントを推進しています。CSR委員会において、年度毎に潜在的なものを含めた各種リスクをあらかじめ集約し、管理するリスクを特定しています。特定したリスクは定性的・定量的な影響度・発生頻度の観点でマッピングしたリスクマップで評価し、当該リスク対策の進捗を四半期毎に確認しています。これらリスクのうち、年度の重要リスクは取締役会に報告しています。なお、2020年度はCSR委員会を6回実施しています。

事業上のリスクとなる状況等は、KPI(Key Performance Indicator:重要業績評価指標)を用いても管理され、定期的に経営会議でモニタリングしています。

リスクのひとつである大規模災害の発生に備え、社員1人1人にヘルメットを貸与しています。災害発生後は交通規制や道路寸断などから、一時的に帰宅が困難になることが予測されるため、水・食料、防寒シート、その他の防災備蓄を計画的に準備しています。また、本社と各事業所に災害用無線機を配備し、公共通信網に障害が発生した場合でも相互で連絡がとれるようにしています。

事業継続上のリスクマネジメント

SIIの製造拠点では、リスク発生時においても継続的な製品の供給を目指し、生産を中断させないリスクマネジメントを実施しています。職場における作業改善から、設備投資を必要とする抜本的な改善まで、広範に取り組んでいます。

情報セキュリティ

情報セキュリティの考え方

SIIは長年に渡って築き上げてきた「匠・小・省」技術を更に強化するために、ITシステムを高度に活用するようになりました。変化の激しいビジネス環境に対応するために、多くのITシステムを利用しています。

昨今においては、デジタルトランスフォーメーション(DX)推進していくにあたり、企業を支えるITシステムへのサイバー攻撃による情報漏えいやビジネスメールを利用した詐欺など、脅威が広範囲かつ、ますます深刻化しています。

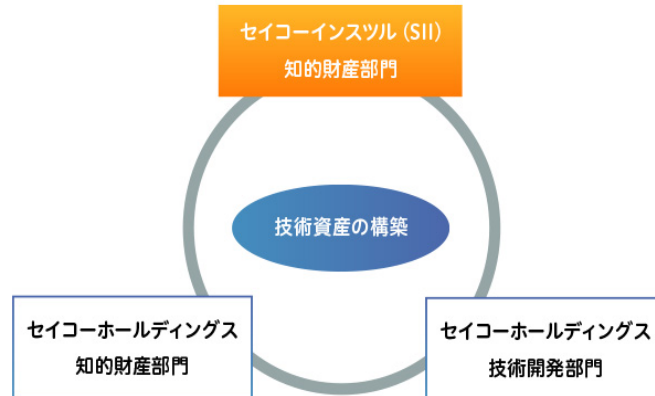
SIIはこの重要なインフラであるITシステムを保全するため、経営上の重要な責務として、継続的に情報セキュリティ対策を見直し、実施します。

知的財産活動

知的財産活動の基本方針と体制

SIIは、知的財産を事業活動上の重要資源と考え、開発などの成果の知的資産としての獲得とその活用に積極的に取り組んでいます。

中・長期方針として「知的財産を尊重・重視する企業風土の醸成」を掲げ、知的財産部門、研究開発部門、生産技術部門が一体となり、経営戦略部門との連携のもと、新規事業創出、事業部支援、のための知的財産活動を行っています。



2020年度より親会社のセイコーホールディングス株式会社に知的財産部門及び技術開発部門が新設されました。これらの部門とも連携し、セイコーホールディングスグループの成長に寄与する知的財産の構築を強化します。

特許出願と特許査定状況

時計製造から始まる技術開発を基盤にしているSIIでは、特許技術をベースに製品の差別化を図っています。事業の再編に伴い、2019年度とは対象となる事業構成が異なりますが、2020年度の国内特許出願件数は107件、査定件数は126件でした。同様に海外特許出願件数は140件となり、出願国では中国、米国、欧州の順となっています。海外の査定件数は、132件でした。一方で、1件の出願の質の向上を図るべく2008年度からは特許査定率の向上に力を入れてきました。年度によりばらつきはあるものの、査定率は向上傾向にあり、特許庁が公表している国内全体の査定率を上回る水準まで改善しており、2020年度の特許査定率は77%で、2019年を上回ることができました。知的財産部門が権利化への活動を発明者とともに着実に対応することで、発明者の新規出願の質の向上にもつながるとい、スパイラルアップを実現しています。

今後も、1件の出願の質の向上を図り強い知的財産基盤を構築することで、ブランド価値向上に向けた活動を続けていきます。

品質保証・製品安全

品質に対する考え方・品質基本方針

SIIはお客様にお届けする製品を、お客様の視点に立って、安全に、そして安心してお使いいただくために、全グループを挙げて幅広い品質保証活動を展開しています。

「お客様価値を創造するQ(Quality 品質)、C(Cost コスト)、D(Delivery 納期)、S(Safety&Service 製品安全及びサービス)を提供する」

これはSIIグループの品質基本方針です。品質のみならず、コストも納期もそして製品の安全性も含め、お客様にご満足いただきたい、というSIIの強い意志が込められています。

この品質方針を具体化するために、品質保証推進体制を構築し、以下を基本施策として取り組んでいます。

1. 品質、製品安全に関する国内外の技術法規制、各種規格の遵守
2. 開発・設計段階での品質、製品安全の作りこみのしくみづくりと人材育成
3. 品質、製品安全に関する情報の共有化

安全・安心を作りこむ品質保証

SIIの製品安全への基本的な考えは、「お客様へ安全な製品、サービスを確実に提供し、お客様の安心と信頼を高めること」です。継続的な製品安全教育を実施し、製品安全意識の向上と安全技術者を育成しています。

また、SIIグループ内に製品安全連絡会を設置し、全製品について定期的に製品安全・技術法規制点検を行い、製品の安全性と各国法規制への適合を検証しています。

万が一、SIIの製品による事故が発生した場合は、10分以内に経営トップへ報告し、同時に問題の早期解決と再発防止を図った上で、全社で情報の共有化と水平展開を進めています。

お客様との対話

お客様相談室

SIIお客様相談室では、お客様からのお問い合わせやご相談などに、迅速で正確、誠実な対応を心掛けています。さらに寄せられたご意見、ご要望、お困りの声は、関係する事業部と共有し、製品の品質改善など有効に活用させていただきます。

また、製品の取扱相談窓口や修理サポート・サプライ窓口の対応改善などを提言し、お客様にご満足いただけるアフターサービスの品質向上にも力を注いでいます。

安全・品質情報の開示

消費生活用製品安全法の施行に合わせ、SIIホームページに「製品に関する大切なお知らせ」アイコンを設置しています。SIIの製品の安全・事故情報及び重要品質情報を、速やかに且つ的確にお客様にお伝えし、お客様の不利益を最小限に食い止めるよう努めています。

社員に対する支援

人権の尊重

SIIではSII企業行動憲章の「第3条 人間尊重と人材育成」において、

- ・社員の人格と多様性を尊重し、安全で働きやすい環境を実現します。成長を支援し、公正な評価と処遇に努めます。
- ・事業活動において関わる全ての人々の人権と人格を尊重します。
- ・高い倫理観を持ち、創造性と専門性に優れた人材の育成に努めます。

と掲げ、グループ内での徹底を図っています。

海外の関連会社でも、各々の文化・慣習を反映しながら「人間尊重の基本ポリシー」の明文化を進めました。この「人間尊重の基本ポリシー」のメッセージに込められた精神に基づいて、ステークホルダーに対して行動するように社員に徹底しています。

ワークライフバランスの実現

SIIでは社員の一人ひとりが能力を十分に発揮できるように、仕事と家庭生活との両立を支援する各種制度を定め、継続的な充実も図っています。

2019年度からは、所定の始業・終業時刻を一定の範囲でシフトできる制度(勤務時間シフト制度)を導入しました。この制度は、育児や介護といった事由に関わらず、ボランティアや勉強など自身のプライベートの充実を目的としています。また、同様に、事由を問わず短時間勤務ができる制度(短時間制社員制度)、週休3日の制度(短日勤務制度)も導入しました。

この他にも、介護休職制度については、対象家族のうち一人について最長3年間までの取得を認め、長期に渡る可能性のある介護と仕事の両立を支援しています。

2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から在宅勤務を実施しましたが、今後ワークライフバランスを目的とした在宅勤務制度を労使で構築し、導入していく予定です。

【制度と利用実績】

制度	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
育児休職	22名	18名	21名	23名	16名
育児短時間勤務	38名	27名	24名	22名	17名
介護休職制度	0名	0名	0名	0名	2名
介護短時間勤務	1名	1名	1名	1名	0名

安全と健康

安全衛生の考え方

SIIでは、すべての社員が「安全で、安心して働ける」、すべての社員が「心身ともに健康である」ことが企業を支える根幹をなすものと考えています。

2008年に定めた「SIIグループ労働安全衛生方針」のもと、SIIグループすべての拠点において、工場災害及び労働災害の未然防止や、高いレベルの安全を追求し、快適な職場環境づくりに継続的に取り組んでいます。

公正で誠実な購買活動

持続可能な調達の方針

SIIは、親会社であるセイコーホールディングス株式会社で「セイコーホールディングスグループ調達方針」が制定されたことに合わせ、従来のSII購買方針を廃止し、セイコーホールディングスグループ調達方針に準拠することとしました。これまでSIIでは「サプライヤーパートナーシップの強化」を掲げ、公正で誠実である調達活動を実行してきましたが、持続可能な調達の実現のため、セイコーホールディングスグループの調達方針として掲げた「お取引先との共存共栄」、「環境・社会・ガバナンスに配慮した調達活動の推進」、「お取引先の公平・公正な評価・選定」の実践に努めていきます。

サプライヤー認定制度

SIIでは、サプライヤー認定基準を用いて公平な取引先選定を図るとともに、購買サプライチェーンでCSR体制を構築しています。

■ SII グループのサプライヤー認定基準

- ・誠実で公平な取引、人間尊重、社会との共存等を実行するための仕組み
- ・安定した経営状況
- ・環境管理体制
- ・品質、リスクマネジメント等の管理体制

2020年度は、認定サプライヤーの環境・社会・ガバナンス体制が、SII基準に適合しているのかを継続して確認するためサプライヤー認定制度の改定を進め、2021年度は実施と定着を図ります。

下請代金支払遅延等防止法（下請法）の遵守

下請法は購買活動において特に重要な法律です。SIIでは、本社購買部門に下請法事務局を置き、日常業務における適切な指導、教育等を通じてグループの購買関係者との連携のもと下請法の遵守に取り組んでいます。2020年度は国内の9購買部門を対象に点検を実施し、下請法の違反がないことを確認しました。

購買リスク管理

製品を提供するメーカーとして、購入部品の供給停止リスクを最小限に抑えることは重要です。購買部門では、地震などの災害発生時に迅速な初動アクションが取れるように、重点管理サプライヤーを明確にし、製造拠点の所在地を把握、かつ、部品の供給停止を防ぐため、代替先や代替品の選定を進めています。

紛争鉱物への対応

SIIは、コンゴ民主共和国および周辺諸国における人権侵害、不正に関わる組織の資金源とされる紛争鉱物問題を、国際的な重大問題と認識しています。

SIIでは、2012年3月に「SIIグループ紛争鉱物対応方針」を制定しました。

サプライヤーの皆様にもご協力をいただきながら、紛争鉱物の使用禁止を推進しています。

地域・社会とSII

学術・技術振興

■ 公益財団法人 新世代研究所

SIIは公益財団法人 新世代研究所(以下、ATI)への寄付や業務支援を通じて、社会貢献としての学術振興に寄与しています。ATIは個性ある有能な研究者を集め、それぞれの専門領域を越えた討議、交流の場を作るとともに、若手研究者への助成を行うなど、新世代の科学、技術の発展に貢献することを目的としています。2018年6月、SIIはATIに対して行った寄付に対して、公益に資するものとして「紺綬褒章」を受章しました。

環境社会貢献活動

■ 植栽活動 - セイコーインスツルの森 -

幕張事業所は、2014年8月に千葉県と「法人の森協定」を締結し、千葉県の九十九里浜沿いにある「セイコーインスツルの森」にてクロマツの植栽を行っています。2018年4月には協定を更新し、クロマツの成長を見守り続けてきましたが、2019年9月に発生した台風15号によりクロマツが損傷する大きな被害を受けました。2020年度は社員による追加植栽を予定していましたが、コロナ禍で断念し、2021年5月に千葉県森林組合による追加植栽を実施しました。今回植栽した苗木は、抵抗性クロマツ192本とトベラ46本です。今後も成長を見守り続けていきます。



■ 地域清掃活動

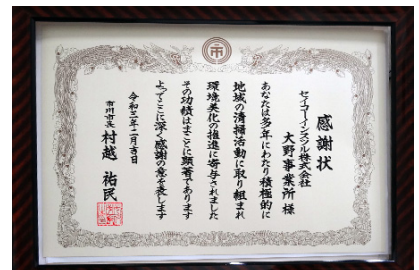
SIIの国内外の各拠点では、地域社会への貢献や環境保全の一環として定期的に事業所周辺や沿道などの清掃活動を行っています。

2020年度は、コロナ禍で多くの拠点では活動を断念、もしくは規模を縮小しての活動となりました。今後も新型コロナウイルスの感染状況に配慮しながら活動を継続していきます。



■ 仙台事業所では近隣の広瀬川周辺や事業所周辺の地域清掃を継続的に実施しています。2020年度は約30名の社員が参加しました。

■ 大野事業所は、地域の環境美化に貢献している団体として市川市から表彰されました。長年にわたり定期的に行っている事業所周辺清掃活動が評価されたものです。今後も周辺の清掃活動を通じて地域貢献を行っていきます。



育成支援

SIIの国内外の各拠点では、工場見学の受け入れや地元の児童・生徒の就業体験に継続的に協力しています。2020年度は、コロナ禍による影響のため活動を中断しました。新型コロナウイルス終息後に活動を再開する予定です。

地域社会活動

SIIの国内外の各拠点では、地域に根差した福祉活動を行っています。2020年度は、コロナ禍による影響のため活動を中断しました。新型コロナウイルス終息後に活動を再開する予定です。

SIIの環境ビジョン

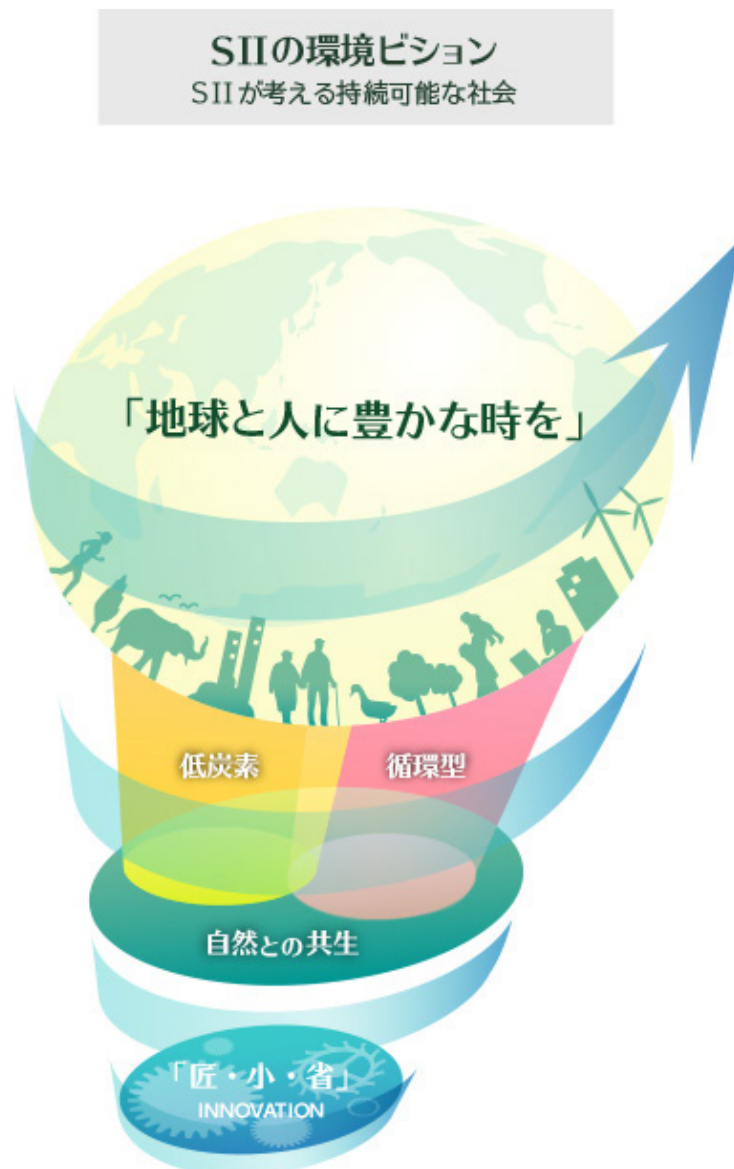
2017年、SIIは創立80年を機に、これからのSIIの環境経営を見据えた「環境ビジョン」を策定しました。

これは、自然との共生、低炭素、循環型が達成された持続可能な社会であることを基本に、SIIが目指す方向性を示したものです。

SIIは腕時計メーカーとして創業し、コーポレート・アイデンティティとして「時を創り、時を活かし、時を豊かに」を掲げています。「時」に携わる企業として、SIIが目指す持続可能な社会とは、「地球と人に豊かな時を」としました。これは地球と人が「豊かな時」を享受できていることであり、それが将来にわたることを願っています。将来にわたる「時」は持続可能性をも表しています。

この環境ビジョンの達成にはイノベーションが不可欠です。これまでの延長ではなし得ないことですが、SIIはこれまでもイノベーションを起こすことでクォーツウオッチ実現への技術革新を先導し、時計製造で培った「匠・小・省」の技術を活かしながら事業を展開してきました。

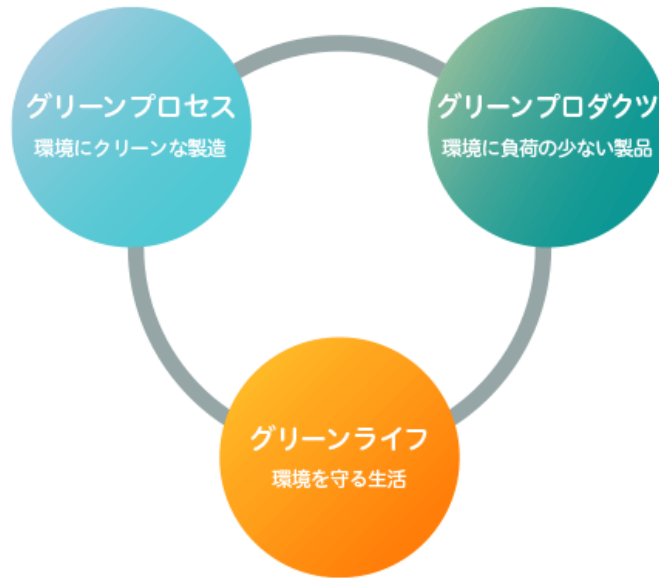
これからも「匠・小・省」の技術でイノベーションを追求し、持続可能な豊かな時の実現を目指します。



グリーンプラン・環境方針

グリーンプラン

SIIグループでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとするグリーンプランを策定し環境経営を実践しています。



■ SII グループ環境方針 2017年1月改定

■ 環境理念

SIIグループは、企業活動と地球環境との調和をめざし、3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を基本コンセプトとし、環境活動に取り組み、全ての生命と共生できる持続可能な社会の実現に貢献します。

■ 環境活動指針

1. 環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスを継続的に改善しながら、社会の要請に応えた先進的な活動に努め、ステークホルダー価値の向上を図ります。
2. 法令及びその他の義務の遵守はもとより、環境リスクの低減と汚染の予防に努めます。
3. 「匠・小・省」※1の技術を礎に、以下を重点項目として取り組みます。
 1. ライフサイクルにわたって環境に配慮し、加えて環境保全に貢献できる製品・サービスを提供します。
 2. 環境に配慮した効率的なものづくりを積極的に推進します。
 3. 全ての企業活動において省エネルギーを徹底し、地球温暖化防止に努めます。
 4. 資源の有限性と貴重さを認識し、地球資源の責任ある利用を図ります。
 5. 化学物質によるリスクを低減させると共に、有害物質の排除を推進します。
4. グリーン購入を推進すると共に、製品含有化学物質の適切な管理を徹底します。
5. 生物多様性への影響とその恩恵を認識し、生物多様性の保全に努めます。
6. 社員の環境意識の向上を図り、一人ひとりが身近な生活においても環境保全に努めます。
7. 環境に関する社会貢献と説明責任を果たしながら、社会とのコミュニケーションを推進します。
8. サプライヤーの皆さまにも、本方針にご協力いただくよう推進します。

※1「匠・小・省」:SIIの技術理念

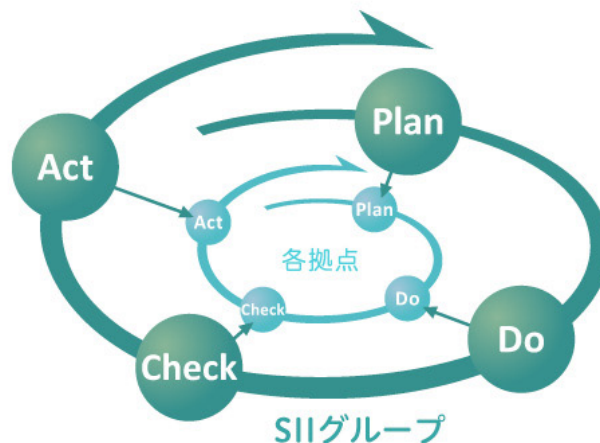
環境マネジメント

環境マネジメントシステム

SIIは、グループ全体として、また各拠点においても国際規格ISO14001に則った環境マネジメントシステムを構築し、PDCAのマネジメントサイクルを確実に回すことで環境パフォーマンスの向上に努めています。

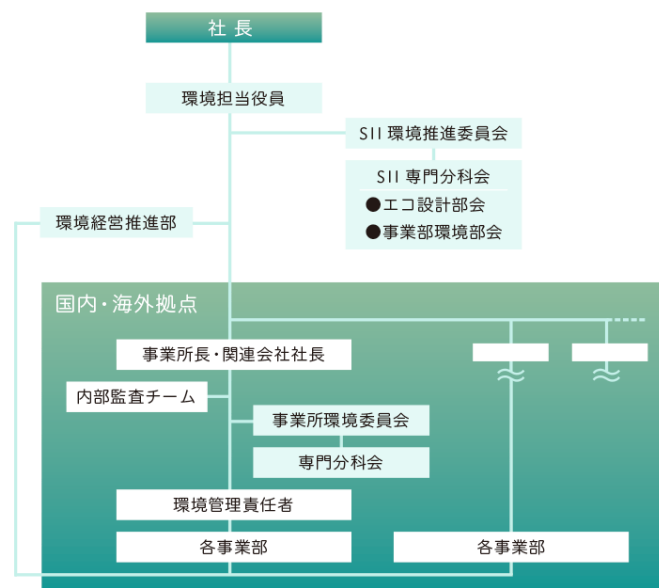
「SIIグループ環境方針」に基づき、環境活動における中期目標や年度目標を策定し、これらの目標は各拠点の環境マネジメントシステムによって展開されます。

その活動実績は定期的に本社の環境経営推進部へ報告され、環境経営推進部では全グループを統括した環境マネジメントシステムを運用しています。



環境経営推進体制

SIIでは、社長のもと、環境担当役員を最高責任者として、SIIグループの環境マネジメントの推進体制を構築しています。拠点単位と事業部門単位の2つの体制を備え、各々の課題に応じた取り組みを、環境経営推進部が事務局となり、各拠点や事業部門と協力しながら推進しています。



SII環境推進委員会では、SIIグループの中期計画の審議、各拠点からの活動報告や情報交換を行い、全グループで環境活動を着実に推進していくことを確認しています。2020年度の委員会は、コロナ禍でも中止することなく、web会議ツールを利用し予定通り開催しました。

環境配慮・貢献製品

グリーンプロダクツの進化 – 環境に配慮した製品・貢献する製品 –

SIIでは3つのグリーン「グリーンプロセス・グリーンプロダクツ・グリーンライフ」を環境経営の基本コンセプトにしています。

中でも、グリーンプロダクツ、すなわち環境に配慮し、また貢献できる製品を創出していくことはメーカーの使命だと考え、SIIの技術理念である「匠・小・省」をベースに、環境に配慮した製品・貢献する製品を提供しています。

SIIグリーン商品

SIIでは、2001年12月に「SIIグリーン商品ラベル」制度を導入、2006年10月には「SIIハイグレードグリーン商品ラベル」制度を導入し、製品自体の環境性能を確実に向上させてきました。

グリーンプロダクツplus

製品自体の環境性能の向上に加えて、「SIIの製品が組み込まれることでお客様の製品の環境性能を向上できる」、また「人々が生活する環境の保全に貢献できる」、というこの考え方を「グリーンプロダクツplus」と名付け、製品やサービスの提供に注力しています。

提供範囲の拡大

–ソフトウェア・サービス–

これまでのハード製品（機器、部品等）での運用に加えて、新たにソフトウェア・サービスにもグリーン商品ラベル制度の運用を開始しました。



SIIの製品を支える「匠・小・省」の技術

SIIの技術理念

「匠」：一歩進んだものを、「小」：ミニマムサイズで、

「省」：環境にやさしく創ること。

これを「SYO」ismとして表しています。

気候変動

「脱炭素社会」の実現に向けて、企業が果たすべき役割や責任はますます大きくなっています。同時に、自然災害の多発など、気候変動による事業上のリスクは年々高まっています。

SIIは、ものづくりの現場での省エネ活動はもとより、各事業会社が提供する製品・サービスにいたるまで、全事業活動を通じて温室効果ガスの排出量削減に努めています。これらの活動を継続しながら、再生可能エネルギー導入など、脱炭素に向けた取り組みをさらに強化していきます。

2020年度の総括と今後の取り組み

2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、SIIはウオッチ事業をセイコーウオッチ(株)に移管、また、研究開発・生産技術開発機能をセイコーホールディングス(株)に移管しました。これらに加え、コロナ禍の影響もありCO₂排出量をはじめとするSIIの環境負荷も大きく減少しました。

CO₂排出量削減の活動としては、設備の効率的な運用などの継続的な取り組み、照明器具などのLED化や設備更新にも努めました。また、海外拠点では再生可能エネルギーを導入しました。

今後は中長期的なビジョン、目標値を再設定し、脱炭素に向けた取り組みを加速していきます。

資源循環

海洋プラスチック問題、食品ロス、衣服ロスなど、資源を利用し製品やサービスを提供するメーカーにとって資源循環は重要な経営課題であり「循環型社会」の形成に向けて果たすべき責任はますます重大になってきました。

SIIでは製品の材料となる鉱物資源やプラスチック、木材や紙などの生物資源、また生産工程では化学物質や水資源など多くの資源を利用しています。製造・販売の場面だけではなく、原材料採取から廃棄・リサイクルまでの全ライフサイクルにおいて、資源の有効活用や廃棄物の削減に努めています。製品の長寿命化や小型軽量化によるリデュースや、再生材の利用や再資源化によるリサイクルを徹底しています。

廃棄物

2020年度の総括と今後の取り組み

2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、SIIはウオッチ事業をセイコーウオッチ(株)に移管、また、研究開発・生産技術開発機能をセイコーホールディングス(株)に移管しました。これらに加え、コロナ禍の影響もあり、廃棄物排出量をはじめとするSIIの環境負荷も大きく減少しました。

今後は中長期的なビジョン、目標値を再設定し、循環型社会に向けた取り組みを加速していきます。

水使用

2020年度の総括と今後の取り組み

SIIでは、水は貴重な自然資本であるという認識のもと、水資源の3Rに取り組んでいます。水使用量そのものの削減とともに、製造工程で使用した水の再生利用にも取り組んでいます。2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編により、水使用量も減少しました。

生物多様性保全

SIIは、事業活動が生態系サービスの恩恵を受け、同時に影響を与えている企業として、生物多様性の保全は環境経営の重要課題であると考えています。SIIでは2011年4月に生物多様性行動指針を策定し、具体的な取り組みを開始しました。各事業所では生物多様性に配慮した土地利用、植栽活動、ステークホルダーとの連携など事業所の特性に合わせた生物多様性活動を推進し、「自然共生社会」の実現を目指しています。

2020年度の総括と今後の取り組み

SIIは、自然共生型社会実現への貢献 - いきものと共生する事業所 - を目指すことを目標に掲げています。2020年度は生物多様性の見える化に取り組みました。事業所に生息するいきもの調査、撮影や記録、また、それらの結果を事業所内で共有することで、生物多様性の見える化、理解が進みました。また、「SIIグループ生物多様性土地利用ガイドライン」に基づく活動も継続しました。今後は、ポスト愛知目標を参考にしながら新たな取り組みを検討していきます。

生物多様性に配慮した土地利用

多様性土地利用ガイドライン」を発行し、ガイドラインに基づいた事業所緑地の利用や、地域の生物多様性保全への貢献活動を継続的に実施しています。2020年度も各事業所では事業所の特徴をいかしたさまざまな取り組みを展開しました。

■ 絶滅危惧種の保護

大野事業所では、2020年6月に実施したいきもの調査にて、敷地の一角に絶滅危惧種(環境省・絶滅危惧Ⅱ類)であるキンラン14株を発見しました。発見当時は開花時期は過ぎていましたが、2021年4月には8株の開花した姿を確認できました。大野事業所は都心に近い千葉県市川市に立地し、事業所周辺は住宅に囲まれている環境ですが、そんな中でキンランが発見されたことは大変喜ばしいことであり、今後も見守っていきます。また、大野事業所は市川市の「生物多様性モニタリング調査員」に登録し、事業所内でいきものを発見した際には「いちかわ生きものマップ」への投稿を行っています。



化学物質管理

環境汚染や事故の原因となる化学物質は、正しく安全に管理していくことはもちろんのこと、使用量の削減や安全性の高い化学物質への代替など、環境負荷低減に向けた取り組みも企業の重要な責任です。化学物質を使用しているSIIの各拠点では適正な管理や削減活動、また継続的に化学物質管理の教育や訓練を行っています。

2020年度の総括

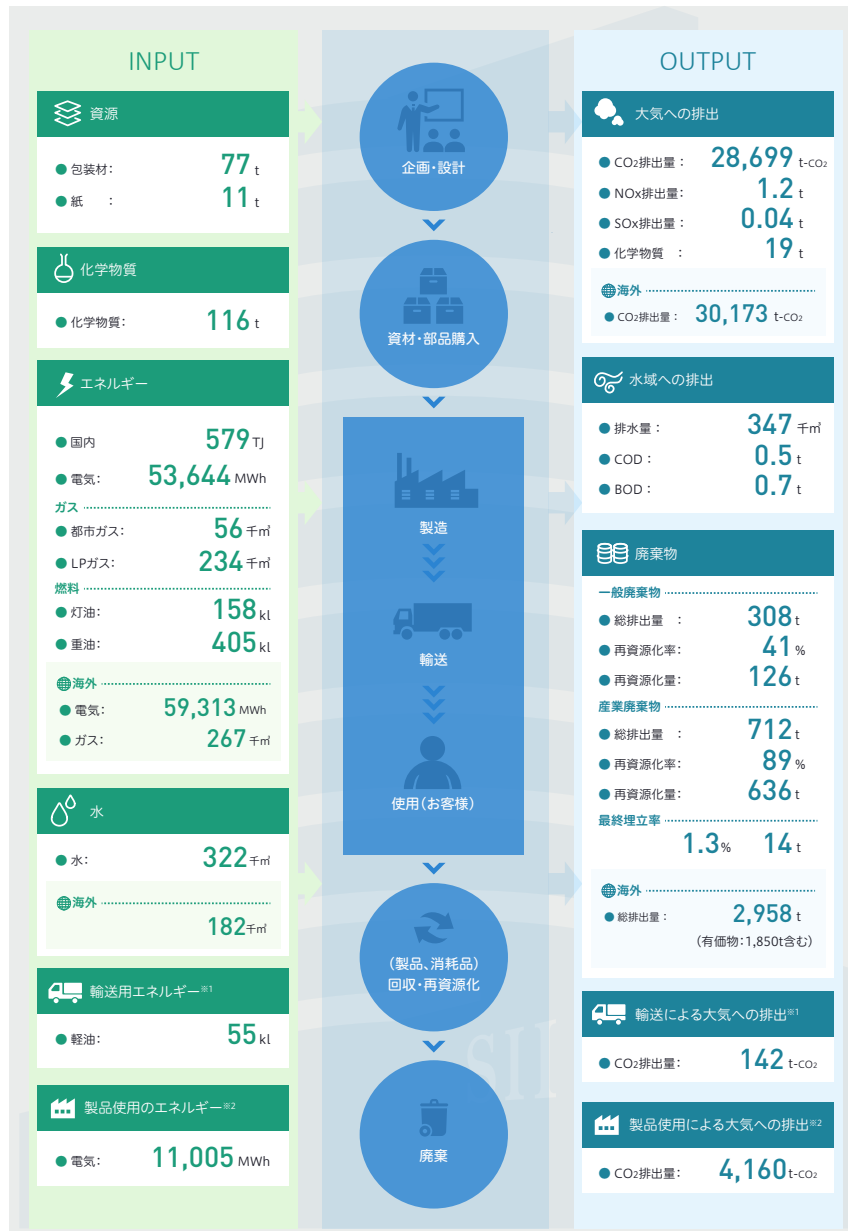
2020年度の製造工程におけるSIIが定めた管理対象物質^{※1}の排出量は19.2トンで、前年度実績より約5トン削減しました。また、PRTR法^{※2}対象物質の取扱量は45.8トンで、こちらは前年度より27.6トン削減しました。削減の大きな要因は2020年4月に行われたセイコーホールディングスグループ内での大幅な事業再編によるものです。

※1 SIIの国内拠点では製造工程で使用する化学物質の中で、PRTR法対象物質に加えSIIで独自に指定した自主管理物質(23物質)とVOC(揮発性有機化合物:100物質)を排出量削減の管理対象としています。

※2 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register 化学物質排出移動量届出制度)化学物質の取扱量、環境中への排出量、廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量などを把握・集計し、公表する制度。企業はこの制度の対象となる化学物質について集計し、行政機関に年に1回届け出る。

事業活動と環境負荷

SIIグループは、環境負荷を製品のライフサイクルを通して的確に把握していくことは環境活動の基本だと考えています。2020年度の環境負荷の概要は次の通りです。



INPUT	OUTPUT
包装材 : 容器包装リサイクル法の対象となる紙・プラスチック	CO ₂ : 電気、ガス、油、冷温水などの使用により発生する二酸化炭素
紙 : 社内で使用するコピー用紙、プリンター用紙	NOx : ガス、油などの使用により発生する窒素酸化物
化学物質 : PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF ₆ 、NF ₃ 、VOC	SOx : 油などの使用により発生する硫黄酸化物 ※ NO _x 、SO _x は大気汚染防止法で規制されるばい煙発生施設を設置している事業所に限定
電気 : 電力会社からの購入電力	化学物質 : PRTR対象物質とHFC類、PFC類、SF ₆ 、NF ₃ 、VOCの大気・水域への排出量
ガス : 都市ガス、LPガス	排水 : 河川、下水道への排水
燃料 : 灯油、重油、軽油	COD : 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の総量規制対象事業所に限定
水 : 上水道、工業用水、地下水	BOD : 汚濁負荷量 ※ 水質汚濁防止法の特定施設設置事業所に限定
	一般廃棄物 : 事業活動に伴い発生する廃棄物のうち、紙ゴミ、生ごみなど
	産業廃棄物 : 事業活動に伴い発生する廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラ、燃え殻、汚泥など
	最終埋立率 : 廃棄物総発生量に対する最終埋立処分量の比率

※1 : 輸送:国内のSIIグループ間の輸送のみを対象

※2 : 使用:2020年度までのSIIグリーン商品認定品を対象に1年間の使用で推計。

CSR活動の目標と実績

2020年度の主な活動実績は以下のとおりです。

2020年度実績評価の目安 ◎：目標以上に達成 ○：ほぼ達成～達成 △：達成度70%以下 ー：評価対象外

■ コンプライアンス

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
オンライン形式のコンプライアンスクイズの継続実施 ●『今日のコンプライアンス博士の言葉・一問』は営業日毎日更新 ●コンプライアンスクイズは、年1回定例実施	●『今日のコンプライアンス博士の言葉・一問』：営業日ほぼ毎日更新 ●コンプライアンスクイズ：1回実施(12月～1月)	○	オンライン形式のコンプライアンスクイズの継続実施 ●『今日のコンプライアンス博士の言葉・一問』は営業日毎日更新 ●コンプライアンスクイズは、年1回定例実施
経営幹部へのコンプライアンス意識維持・向上活動の継続実施(原則半期に1回実施)	経営幹部へのコンプライアンス説明の実施：2月	○	経営幹部へのコンプライアンス意識維持・向上活動の継続実施(原則半期に1回実施)
コンプライアンス意識調査の継続実施(年1回定例実施)	1回実施(6月～7月)	○	コンプライアンス意識調査の継続実施(年1回定例実施)

●通報・相談件数：7件

■ リスクマネジメント

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
全社リスクマネジメント活動の継続・推進	重要リスクの評価・管理のPDCA実施(計26件についてリスク対策を実施)	○	全社リスクマネジメント活動の継続・推進

■ 知的財産

●特許保有件数：国内 1,505件 海外 1,466件

■ お客様満足

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
お客様満足度向上への継続的取り組み	お客様相談室において継続的に実施	○	お客様満足度向上への継続的取り組み

■ 品質管理・製品安全

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
製品安全点検：対象製品に対して、100%実施する	対象製品に対して、100%達成した	○	製品安全点検：対象製品に対して、100%実施する
業務プロセス点検：新型コロナウイルスの感染拡大を防止しながら、点検方法を見直して実施する	移動制限により現地点検を中止とし、自己点検を行った	○	新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、リモート式または現地点検で実施する

■ 人権尊重

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
海外拠点における人材マップの作成 ●職種マップ作成：50%終了	コロナ禍で対面の指導が出来ず、職種マップの作成目的と作成方法を海外拠点のHRにリモートで指導	△	コロナ禍が継続することが想定されるため、販社の職種マップのみ、完了予定 (対象：販売会社)

●育児休職利用実績：**16**名 育児短時間勤務利用実績：**17**名

■ 安全と健康

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
SII グループ総合安全点検(自主点検)：国内全拠点と海外製造拠点にて実施	国内全拠点と海外製造拠点にて自主点検を実施 →各拠点で是正対応	○	SII グループ総合安全点検(自主点検)：国内全拠点と海外製造拠点にて実施
救命講習：国内各拠点で実施	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により各拠点とも中止 →0名	△	新型コロナウイルス感染症の影響を判断しながら、対応方法も含めて実施方法を検討
特定健康診査受診率：87.6%	85.4% ※	○	87.0%
特定保健指導実施率：51.0%	37.0% ※	○	52.3%

※ 2021年7月時点の見込み値

■ 社会との共存

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
各拠点で地域貢献活動を継続的に実施	地域清掃、寄付、植栽活動などを実施	○	各拠点で地域貢献活動を継続的に実施
各拠点で体験学習、インターンシップなどの受け入れを継続的に実施	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により各拠点とも受け入れを中止	△	新型コロナウイルス感染症の影響を判断しながら、対応方法も含めて実施方法を検討

■ 公正・誠実な購買活動

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
調達イントラ教育実施	実施 79名受講	○	調達イントラ教育実施
サプライヤー認定制度の継続実施、制度見直し	●継続実施 ●制度見直し	○	サプライヤー認定制度の継続実施

■ 環境配慮型製品の創出

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
グリーン商品の売上比率の向上	SII 全体 95% 以上	99.5%	◎ SII 全体 95% 以上に維持
ハイグレードグリーン商品の創出数向上	(制度改訂により、実績把握)	旧制度：1件	— (制度改訂により、実績把握)

製品含有化学物質

2020年度目標		2020年度実績	評価	2021年度目標
製品へのカドミウム、六価クロム、水銀、鉛の非含有	非含有を 95% 以上に維持 ※1	94.2%	○	非含有を 95% 以上に維持 ※1
製品へのフタル酸エステル類の非含有	非含有を 95% 以上にする ※2	96.0% ※3	◎	製品へのフタル酸エステル類の非含有を 95% 以上に維持 ※2

※1 EU圏向け製品は2006年5月末に全廃達成しました。

※2 フタル酸エステル類:DEHP, BBP, DBP, DIBP非含有の目標管理対象は海外向けに出荷する製品とします。

※3 EU圏向け製品は2019年5月末に全廃達成しました。(法規対象製品)

気候変動

2020年度目標		2020年度実績	評価	2021年度目標
エネルギー起源のCO ₂ 排出量の削減	(CO ₂ 排出係数の見直しにより未設定)	総量: 28,699 t-CO ₂ ※1 前年度比 -32.3%	○	維持管理 (前年度比 -1% を目標)
	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 1% 削減	総量: 30,173 t-CO ₂ 前年度比 -36.9%	—	拠点ごとに前年度比 1% 削減

※1

*燃料は、温対法「燃料種別の発熱量」、「燃料の使用に関する排出係数」を使用

*電気は、温対法「電気事業者別排出係数」を使用

*冷温水は、供給業者提供の排出係数を使用

*2020年度から、テナント、店舗、倉庫などを集計対象に追加。社用車も追加

*使用量が特定できない店舗、倉庫などは、床面積から電力量を推定

資源循環

2020年度目標		2020年度実績	評価	2021年度目標
廃棄物の再資源化率の向上	(国内拠点) 維持管理	75%	—	維持管理
	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 3 ポイント向上	69%	—	拠点ごとに前年度比 3 ポイント向上
水使用量の削減	(国内拠点) 維持管理	322 千m ³ 前年度比 -15%	—	維持管理
	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 1% 削減	182 千m ³ 前年度比 -49%	—	拠点ごとに前年度比 1% 削減
事務用紙使用量の削減	(海外拠点) 拠点ごとに前年度比 3% 削減	7 トン 前年度比 -57%	—	拠点ごとに前年度比 3% 削減

■ 化学物質管理

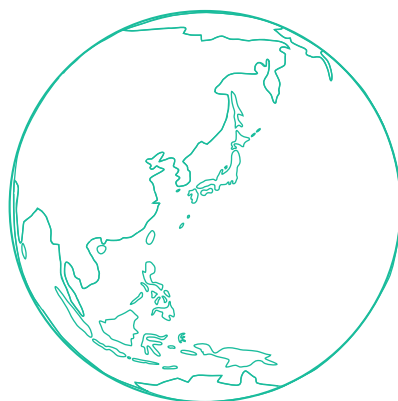
2020年度目標		2020年度実績	評価	2021年度目標
化学物質※の排出量の削減	(国内拠点) 維持管理	1.5トン 前年度比 -21%	—	維持管理

※ここではSIIの管理対象物質である、PRTR法対象物質、HFC類、PFC類、SF₆、NF₃、VOCをさします。

■ 生物多様性保全

2020年度目標	2020年度実績	評価	2021年度目標
<ul style="list-style-type: none"> ● SII 生物多様性土地利用ガイドラインに基づく取り組み継続実施 ● 各サイトで生物多様性保全活動の見える化を継続実施(いきもの調査、撮影など) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 継続実施 ● 各拠点のサイトレポートで活動を報告 	○	<ul style="list-style-type: none"> ● SII 生物多様性土地利用ガイドラインに基づく取り組み継続実施 ● 各サイトで生物多様性保全活動の見える化を推進し、かつPRする

- 千葉県内の3事業所で千葉県の「ヒメコマツ系統保存サポーター」の継続。育成状況の監視と千葉県に定期報告を行う。
- 大野事業所で市川市の「生物多様性モニタリング調査員」の継続。指標生物のモニタリングを実施。



セイコーインスツル株式会社
環境経営推進部

千葉県千葉市美浜区中瀬1-8 〒261-8507

電話番号：043-211-1111 (代表)
043-211-1149 (直通)

ファクシミリ：043-211-8019

<http://www.sii.co.jp/eco/>